## 原発回帰が強まる中、福島の現状を問う！

# 15年目の福島

## ～現地の声を聴く～　第五弾

**☆上映会　「津　島」ー福島は語る・第二章ー**

**☆講演会　「私たちは何を失おうとしているのか」**

**津島原発訴訟団　今野秀則さん・石井ひろみさん**

**映画「津島」ー福島は語るー　監督　土井敏邦さん**

**日時：2月23日（日）　13時～17時（開場12時半）**

**場所：藤沢市民会館第一展示ホール**

**参加費：500円（学生無料）（障がい者・介助者半額）**

主催：NPO法人　こども達に未来をin湘南

お問合せ・参加申し込み：　松延みゆき（090－5567－7435）

Eメール：kodomotachimirai@yahoo.co.jp

協力：藤沢カトリック教会、チームみつばち、大磯エネシフト

福島の子どもたちとともに・湘南の会　他

## 津島原発訴訟について

福島県浪江町津島地区は、9950ヘクタール（山手線内側の約1・5倍）もの広大な地域に約1400人の住人が、豊かな自然に囲まれて暮らす平穏な山村でした。しかし、2011年3月の東京電力福島第一原発の事故で大量の放射性物質に汚染され、全域が帰還困難区域となり全住民が避難を余儀なくされました。住民の約半数にあたる640人は、2015年9月に国と東電に原状回復と損害賠償を求めて福島地裁郡山支部へ提訴しましたが、2021年7月の判決は1人当たり約150万円の賠償を命じる一方で、原状回復の請求については「除染の方法が特定されていない」として退けるものでした。原告団は8月に開かれた臨時総会で控訴を決議、現在仙台高裁で控訴審が行われています。

## 土井敏邦監督のコメント

「津島の記録映画を作りたい」と私を駆り立てたのは、一冊の裁判記録だった。そこには、32人の原告たちが裁判所で陳述した、家族の歴史、原発事故による家族と人の心の破滅、失った故郷への深い思いが切々と綴られていた・「あの原発事故は住民の人生をこれほどまでに破壊していたのか」tp、私は強い衝撃を受けた。「この陳述集の声を映像で記録したい」それが映画「津島」政策の原点である。2021年春から、私は陳述集に登場する原告たちを訪ね歩き始めた。横浜から福島まで車で往復し車中泊を繰り返す、ほぼ10か月がかりのインタビューの旅だった。”津島“は、人口約1400人の問題に終わらない。「多数派の幸福、安全、快適さのために少数派を犠牲にする」在り方への、津島住民の”異議申し立て“であり”抵抗“だともいえる。そういう意味で、”津島の存在と闘い“は小さな一地域の問題ではなく、日本と世界に通底する”普遍的なテーマ“を私たちに問いかけていると私は思う。

「『フクシマは終わったこと、なかったこと』にされてたまるか！」。映画の中で涙ながらに語る証言者たちの声の後ろに、そんな悲痛な叫び声を私は聞いてしまうのである。

## 主催者の思い

**「再稼働・60年越え運転・新増設承認！」 原発への回帰が鮮明となる一方で、**

**1000年も続いてきた集落が今まさに消滅せんとしています。**

**私たちは今何を失おうとしているのだろうか？**

**私たちは今何をなすべきなのだろうか？**

**当事者の声に耳を澄ますなかで、今私たちの眼前で進行している事態の意味を**

**深く考える集会をもちたいと思います。ふるってご参加ください！**